

事業所名

スワールキッズ奈良教室

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和 8 年

9 月

5 日

法人（事業所）理念

子ども達が自立して生きていく力を育む機会と環境を提供し、夢や目標に向かって挑戦し、人生を楽しむ人になることを目指します。

支援方針

スワールキッズでは、「自立」を何でも一人で行うことができるのではなく、人や物、地域の力を上手に借りながら、自分らしく社会の中で生きていく「相互的な生き方」と捉えています。将来、環境や立場が変わっても活かせる5つの「ポータブルスキル」を支援の中心に据え、学習・SST・調理・制作・運動・外出・地域での体験など、実際に「やってみる経験」を通して育てます。

支援では、「できることに目を向ける」「正しさだけでなく気持ちに寄り添う」「子どもが選べる場面をつくる」ことを大切にします。職員が先回りしてすべてを行うのではなく、安心して挑戦し、失敗し、必要な助けを受けながら「やってみよう」「できた」「もう一度やってみよう」と思える“できる環境”を整えます。スワールで得た力を、家庭・学校・地域、そして将来の生活へつなげる力をポータブルスキルと捉えています。

スワールキッズでは、学習、SST、調理、制作、運動、外出、季節行事、地域での体験など、多様な「実際にやってみる経験」を大切にしています。料理を作る、友達と相談する、お店で自分の希望を伝える、分からないときに「教えてください」と言う、失敗した方法を変えてもう一度試してみる——。一つひとつの経験を、将来の生活で使える力につなげていきます。

支援にあたっては、一人ひとりの発達段階や特性、得意なこと・苦手なこと、興味・関心を踏まえ、必要に応じて視覚的な手がかり、言葉掛け、手順の整理、環境調整などを行います。職員が先回りしてすべてを行ったり、一つの「正解」に子どもを合わせたりするのではなく、「どうすれば、この子が自分でできるだろう」「どんな支援があれば挑戦できるだろう」と考え、子どもが自ら経験できる環境をつくります。

その際、私たちは、
「できることに目を向ける」
『『正しさ』だけではなく、まず気持ちに寄り添う』
「子ども自身が選べる場面をつくる」
という3つの視点を大切にしています。

子どもには、自ら育っていく力があります。だからこそ、安心して挑戦し、安心して失敗できることを大切にします。「できなかった」で終わるのではなく、必要な助けを受けたり、方法を変えたりしながら、「やってみよう」「できた」「分かった」「もう一回やってみよう」という経験を積み重ねていきます。

そして、スワールキッズの中だけで「できる」ことをゴールにはしません。家庭・学校・地域や関係機関と連携しながら、スワールで身につけた力を日常生活へ、そして将来へとつなげていきます。

法人理念に掲げる「夢や目標に向かって挑戦し、人生を楽しむ人」へ。子どもたちが自分の成長を感じながら、自分らしい人生を前向きに歩んでいくための土台を、一人ひとりと一緒に育てていきます。

① 自己理解

② 感情と行動の調整力

③ 生活習慣を整える力

④ 他者との関わり(社会性)

⑤ 挑戦と失敗から学ぶ力

自分の得意・苦手、気持ち、体調、興味に気づき、「自分はどうしたいか」「何に困っているか」を考える力。
自分に合った方法で思いや希望を伝え、必要な助けを選べることを目指します。
【経験例】活動を選ぶ／振り返る／得意な方法を知る／「教えて」「手伝って」と伝える

嬉しい・悔しい・不安・イライラなどの感情や身体サインに気づき、気持ちが動いた時にも、自分に合う方法で次の行動を選ぶ力。
感情をなくすのではなく、休憩・相談・言葉で伝える等の方法を増やします。
【経験例】勝敗／予定変更／友達との意見の違い／気持ちの言語化／クールダウン

時間、身支度、食事、衛生、片付け、持ち物、金銭など、毎日の生活を見直し、自分に合った方法や支援を使いながら整える力。
「全部一人で」ではなく、必要な助けを活用して生活できることを大切にします。
【経験例】調理／買い物／片付け／予定確認／持ち物管理／体調に応じた休憩・水分補給

自分の思いを伝え、相手の気持ちや考えにも触れながら、相談・お願い・断る・感謝・協力などを使って人と関係を築く力。
人に頼ることも、自分が誰かの力になることも大切な社会性と捉えます。
【経験例】SST／協力活動／役割分担／店員とのやり取り／友達との相談／援助要請

初めてのことや難しいことにも挑戦し、うまくいかなかった経験から「次はどうしよう」と考え、方法を変えたり助けを借りたりして試す力。
失敗を避けるのではなく、安心して失敗し、学び直せる経験を大切にします。
【経験例】制作・調理の試行錯誤／学習の解き直し／運動への挑戦／失敗後の再チャレンジ

自立に向けたポータブルスキル5つの柱

場所や年齢が変わっても持ち運べる「生きる力」

営業時間

平日

9 時

0 分

から

18 時

0 分

まで

送迎実施の有無

あり

送迎場所、時間により送迎有無については応相談

営業時間			時		分から	時		分まで	送迎実施の有無	なし
営業時間		長期休暇	9 時	0 分	から	18 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり 送迎場所、時間により送迎有無については応相談
		支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	・来所時の様子や体調、水分摂取、疲れ等を確認し、安全に活動できる状態を整える ・手洗い、トイレ、衣服の調整、持ち物管理、整理整頓など、日常生活に必要な習慣の獲得を支援する ・予定や活動の流れを確認し、「今すること」「次にすること」を自分で把握して行動できるよう支援する ・調理、おやつ作り、買い物等の体験を通して、食事・衛生・金銭・道具の扱いなど生活に必要な力を育てる ・自分の体調や困りごとに気づき、休憩や水分補給、援助を求めるなど、自分を守る行動につなげる								
	運動・感覚	・体育館活動、外遊び、運動ゲーム等を通して、走る・投げる・跳ぶ・バランスを取るなどの粗大運動を経験する ・制作、工作、ダイヤモンドビーズ、調理等を通して、切る・貼る・つまむ・混ぜる・道具を操作するなどの微細運動を育てる ・目と手を協応させる活動や、必要に応じたビジョントレーニングを取り入れ、学習や生活動作につながる力を支援する ・姿勢、力加減、動作の調整を経験し、自分の身体を意識して安全に動く力を育てる ・音、触覚、暑さ、疲れ等の感覚特性に配慮し、必要に応じて環境調整や休憩を取りながら活動参加を支援する								
	認知・行動	・写真、イラスト、手順書、見本等の視覚的な手がかりを活用し、活動の見通しや手順を理解して取り組めるよう支援する ・学習や制作、調理、ゲーム等で「どうしたらできるか」を考え、試す、振り返る経験を重ね、問題解決力を育てる ・分からない時や一人では難しい時に「教えてください」「手伝ってください」等、自分から援助要請できる力を育てる ・できたことや工夫したことを具体的に認め、成功体験を積み重ねることで、自分の得意・苦手や自分に合う方法への理解を深める ・学習では一人ひとりの理解度に合わせ、読み・書き・計算・文章理解等を段階的に支援し、「自分でできる」範囲を広げる								
	言語 コミュニケーション	・SSTでは学校や生活で起こる身近な場面を取り上げ、「言葉のメニュー」などを使って複数の伝え方を知り、自分に合う表現を選ぶ経験をつくる ・「お願いする」「断る」「相談する」「感謝する」「謝る」など、生活に必要なコミュニケーションを実際の活動の中で練習する ・自分の気持ち、考え、理由、感想を言葉やその他の方法で表現し、相手に伝わった経験を積み重ねる ・友達の意見や考えを聞き、自分とは違う感じ方や考え方がいることを知る ・外出、買い物、イベント等で店員や地域の人とやり取りする機会を設け、実際の社会場面でコミュニケーションを使う力につなげる								
	人間関係 社会性	・小集団SST、協力ゲーム、調理、制作、外出等を通して、友達と一緒に取り組む経験や役割を持つ経験をつくる ・順番を待つ、ルールを確認する、道具や場所を共有するなど、集団の中で安心して過ごすための力を育てる ・友達と意見が違う時や思い通りにならない時に、気持ちを整えたり、相談したり、別の方法を考えたりする経験を支援する ・勝敗、失敗、予定変更等の感情が動く場面も学びの機会と捉え、気持ちを立て直して次の行動へ移る力を育てる ・季節行事、文化鑑賞、地域施設への外出等を通して、公共の場でのマナーや社会とのつながりを経験する								

家族支援	日々の活動記録や送迎時のやり取り、面談等を通して、事業所での様子や成長を保護者と共有する。家庭での困りごとや子育て上の悩みについて一緒に整理し、本人に合った関わり方や支援方法を検討する。必要に応じて相談支援、学校、行政等の関係機関と連携し、家庭だけに負担が集中しない支援体制づくりを行う。	移行支援	就学・進級・進学等の生活環境の変化を見据え、本人が新しい環境でも力を発揮できるよう支援する。保護者の同意のもと、学校、園、相談支援事業所等と必要な情報や支援方法を共有する。将来の生活を見据え、自己選択、援助要請、生活スキル、社会参加など、環境が変わっても活用できる力の獲得を支援する。
地域支援・地域連携	学校、園、相談支援事業所、行政機関、地域の福祉・教育・子育て支援機関等と、必要に応じて情報共有や支援方針の確認を行う。科学館、体育館、商業施設、文化施設等の地域資源を活動に活用し、子どもが地域の中でさまざまな人や場所と関わる経験をつくる。	職員の質の向上	日々のケース共有、支援振り返り、個別支援計画に基づく支援内容の確認を行う。SST、発達支援、虐待防止、身体拘束適正化、感染症・安全管理、障害特性等に関する研修や外部研修への参加を進め、実際の支援場面をもとに職員間で学びを共有し、支援の質の向上につなげる。
主な行事等	調理・おやつ作り／制作・工作／SST／運動ゲーム・体育館活動／科学館等の見学・体験活動／ボウリング等の地域外出／季節イベント（縁日、ハロウィン、クリスマス等）／文化鑑賞（紙芝居）／買い物・生活体験 など ※活動そのものを目的とするのではなく、5領域の支援目標と一人ひとりの個別支援計画に沿って、自己選択、コミュニケーション、協力、生活力、問題解決等につながる経験として実施する。		